

# 高等学校におけるCS導入のイロハ ～社会教育行政からの支援とともに～

発 表 者 栃木県立真岡工業高等学校 校長 井上昌幸

## 本校の概要

- 県東地区の唯一の**工業高校**。生徒の**7割は就職**し、そのうち4割は地元の企業に就職する、地域密着型の工業高校。
- 工業高校離れの状況も見られ、近年**定員割れの状況**が見られている。
- 生徒の不登校や問題行動も少なくなく、**コミュニケーション力**や**自尊心の低さ**が見られる。
- 令和11年度に隣の農業高校(真岡北陵高校)と**統合し、校地も移転**する予定となっている。
- 現在、機械科、生産機械科、建設科、電子科の**4学科**であるが、次年度から学科再編により、機械システム科、建設科、電子科の**3学科**となる。
- 全生徒数 412名



## ①テーマの決定

## 学校の教育課題の再整理

## 志願者数の減少

- 基礎学力の低下
- 工業の魅力の発信不足



- ①本校の魅力化
- ②本校の強みの発信
- ③地域からの信頼向上

## 生徒の多様化

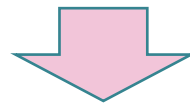
- 学力差の拡大
- 支援が必要な生徒の増加



- ①個に応じた教育の推進
- ②教育相談の充実
- ③生徒の自尊感情の向上

## 工業技術の高度化

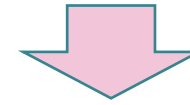
- 先端技術への未対応
- 実習機器等の未整備



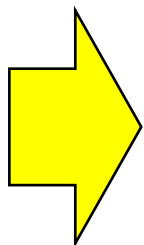
- ①先端技術の導入
- ②研修機会の確保
- ③先進機器の利用

## 統合への準備

- 未来共創型の整理
- 校地変更による問題



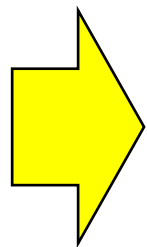
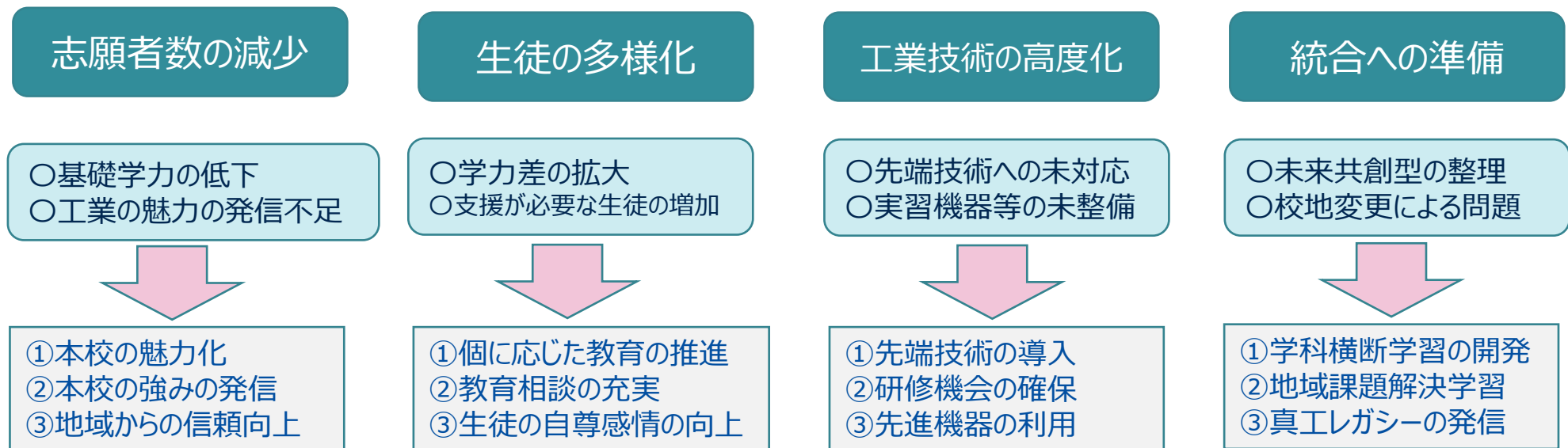
- ①学科横断学習の開発
- ②地域課題解決学習
- ③真工レガシーの発信



これらの学校課題の解決をコミュニティ・スクールで取り組む！！

## ②フレームの決定

## テーマ型にするかコミュニティ型にするか



生徒の多様化

工業技術の高度化

→テーマ型のアプローチ

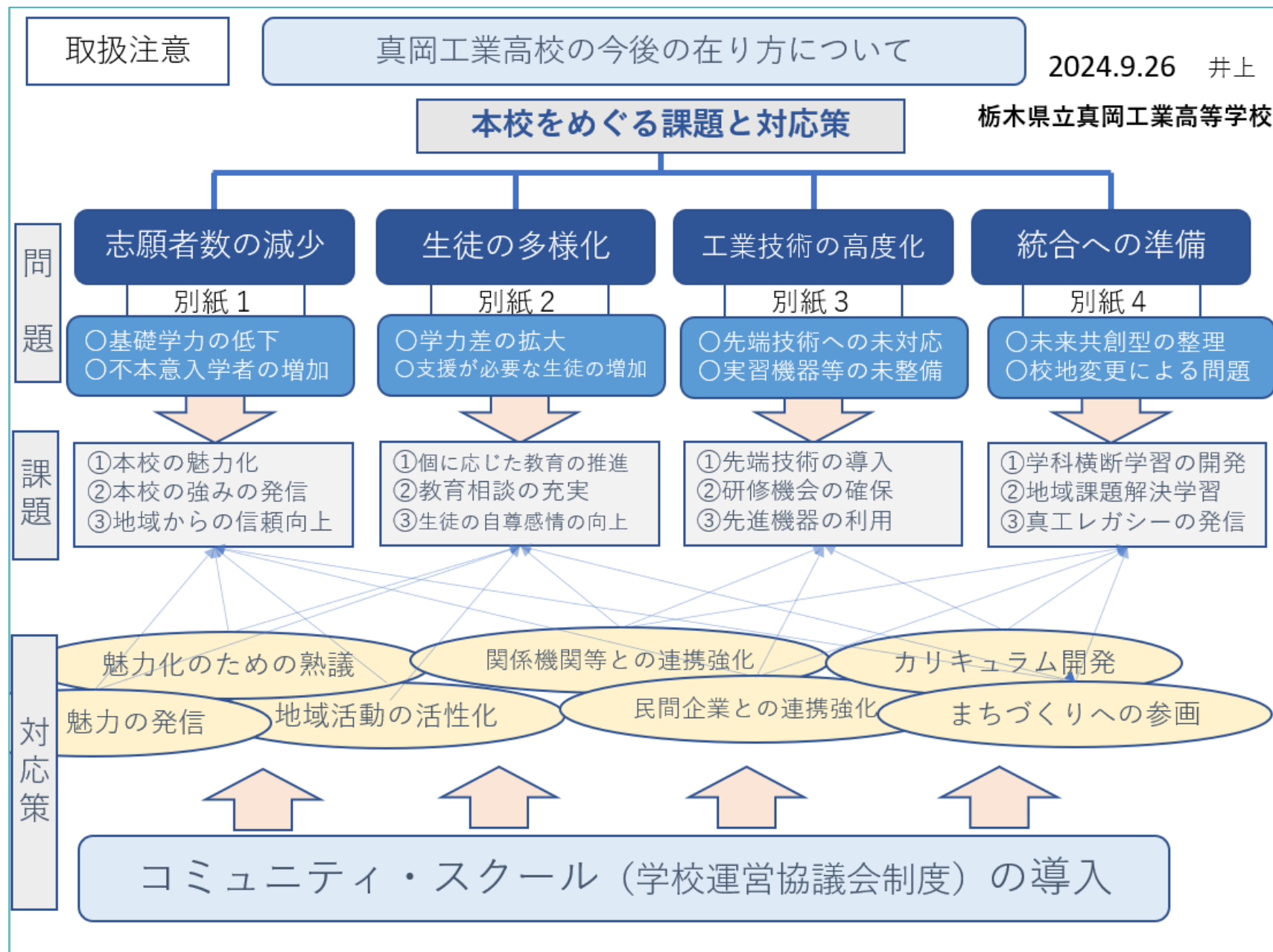
志願者数の減少

統合への準備

→コミュニティ型のアプローチ

どれも喫緊の課題であるため本校ではハイブリッドで取り組む！！

## ③職員への説明と合意形成



## ③職員への説明と合意形成

## 生徒

- ・「真工」の魅力を再認識することができます。
- ・社会性や自尊心が高まります。
- ・地域に目を向けることで郷土愛が高まります。
- ・先端技術や機器等に触れる機会が得られます。

## 教員

- ・探究学習等で地域の教育資源を活用した授業ができます。
- ・生徒の問題を関係機関と連携し解決しやすくなります。
- ・地域の協力を得ることで業務負担を軽減できます。
- ・就職指導や生徒指導の充実と負担軽減が期待できます。

## 学校

- ・教育課題を地域と連携して解決することができます。
- ・学校の魅力が発信され、志望者の増加につながります。
- ・地域が学校応援団となり様々な場面で協力が得られます。
- ・地域との連携により教育課程の質が向上します。

## 地域

- ・本校との連携活動を通して地域の活性化が図られます。
- ・高校生の力でまちづくり活動が活性化します。
- ・企業や関係機関は次世代の担い手を育成できます。
- ・課題研究や探究学習を通して地域課題が解決されます。

## ③職員への説明と合意形成

## 本校でのコミュニティ・スクールの課題

## ①担当の先生への負担

新しい仕組みづくりのため、担当の先生を中心に負担が増えてしまうかもしれません。

➡ できるだけ校務分掌で調整します。  
チーム体制で推進していきます。  
軌道に乗れば負担は減っていきます。

## ②各先生方への負担

地域連携の効果が出るまで、活動に負担を感じたり疑問を感じたりするかもしれません。

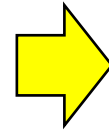
➡ 成果は少しずつ見えてきます。  
生徒のためのコミ・スクです。  
新たな学校づくりには必要な取り組みです。  
あらかじめ御了解ください。

## ③連携活動への理解

連携活動が効果的であるのを実感していただくためには、実体験が必要です。

➡ 連携活動に参加する機会を得てください。  
研修の機会も設定したいと思っています。

## ④課題解決に資する委員の選任



社会教育行政からの情報提供

## 最終決定

- 栃木県産業技術センター技術部長
- 地元企業代表取締役（起業家教育の視点）
- 地区建設業協同組合企画委員長
- 地元企業（市教育委員）
- まちづくり企業代表取締役
- まちづくりNPO事務局長
- 市民協働NPO理事
- 市複合交流拠点施設総括責任者
- PTA会長・同窓会長
- 地元新聞記者
- 自治会関係者（2名）
- 近隣中学校長
- 統合予定高等学校長
- ※生徒代表（委員ではなく会議に参加）

キーマン

社会教育主事からの情報提供

## ⑤学校運営協議会の開催

## A：工業技術向上グループ

テーマ：本校生の工業技術を向上させるには？

キーワード：技術協力、現場体験・実習、教材開発

## B：まちづくり活動グループ

テーマ：本校生の地域活動の活性化を図るには？

キーワード：ボランティア情報、活動の場の開拓、活動成果の賞賛

## C：魅力発信グループ

テーマ：本校の魅力を地域に発信するには？

キーワード：発信の方法、発信すべき魅力、中学生と保護者への発信

## D：統合課題グループ

テーマ：本校のレガシーをどのように継承していくか？

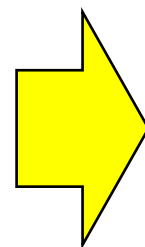
キーワード：地域における記憶、継承すべき伝統、学校統合に向けて

## E：近隣地域協働グループ

テーマ：地域の方々と一緒にできることは？

キーワード：地域への情報発信、地域との交流活動、地域の方々を学校に

## ⑤学校運営協議会の開催

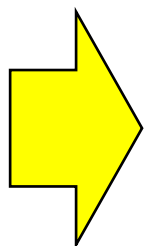


社教主事のプログラム支援

## ⑤ 学校運営協議会の開催

委員の1人である新聞記者（下野新聞）が取り上げ報道された。

- ・委員として参加しているため臨場感のある記述。
- ・通常であれば取り上げられづらい内容。
- ・委員のモチベーションの向上



地域への発信強化！！

## 住民ら交え初会合

真岡工業高の学校運営協

課題など挙げて意見交換

【真岡】真岡工業高でこのほど、本年度新たに設置した学校運営協議会の初会合が開かれた。経営方針の説明や今後の運営に向けた意見交換などが行われた。

同校は魅力ある学校づくりを目的に、地域住民らが学校運営に関わる同協議会を県内の工業高校として初めて設置した。地域住民や地元企業、ボランティア関係者など15人が委員を務める。

委員12人や教員、生徒らが参加。井上昌幸校長は工

業技術の高度化や真岡北陵高との統合準備などを課題に挙げ、地域課題を解決する技術者の育成や、地域と連携した教育活動の推進などを盛り込んだ経営方針を説明した。

その後、グループに分かれて今後の取り組みについて議論した。参加者からは、統合後もレガシーとして残せるものや、地域や企業と連携した実習の実施など、さまざまな意見が寄せられた。

井上校長は「委員の皆さんには一緒になって汗を流



してほしい。実行につながる「していきたい」と話した。議論をし、意見を具体化（田口雅也）

学校運営協議会で意見交換する委員ら

## ⑥課題解決のための活動

## 【各グループの主な意見】

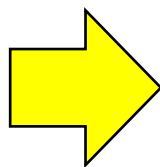
- ・多学科で活用する「ものづくり工房」をつくる。
- ・ボランティアの意向調査と情報提供・場の開拓を行う。
- ・ボランティア活動を顕彰する。
- ・中学生に向けての発信を積極的に行う。
- ・魅力発信のためにSNSを活用する。
- ・学校の前の道を「真工通り」と命名する。
- ・OB・OGのインタビュー記事を作成する。
- ・真工ブランド品の作成と販売
- ・地域の方々を学校に招く機会を作る。
- ・地域と部活動の交流を行う。 等

## ⑥課題解決のための活動

## ○活動 1

## 【複合交流拠点施設との連携協定の締結】

- ・生徒が製作した**製品の展示**および**販売**
- ・生徒の学習成果の**発表の場**づくり
- ・ボランティア**情報**や**活動機会**の提供



# 工業技術の向上と自尊心の向上へ！！



**下野新聞社提供**

## ⑥課題解決のための活動

### ○活動 2

#### 【本校前の道路を「真工通り」と命名】

- ・学校は無くなるが通りの**名前**で**存続**！
- ・生徒が市役所に**相談**と**申請**
- ・歴史的経緯、住民の理解
- ・自治会は見方（仲間）！！



#### 【提案書】

栃木県立真岡工業高等学校前市道の愛称命名について

##### 1. 提案の趣旨

本校は令和11年度に真岡北陵高校と統合し、校名および校地が変更される予定です。これにより、長年にわたり地域とともに歩んできた「真岡工業高校（真工）」の名称が、地域の風景から姿を消すことになります。

一方、本校は今年度から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして地域住民の皆さんと連携・協働し、「地域とともにある学校づくり」を進めております。その会議の中で、本校生徒より本校正門前を通る市道に「真工通り（もうこうどおり）」という愛称を命名し、地域に「真工」の名を末永く残したいという提案があり、自治会代表皆様方々にも賛同いただいたところです。さらに、同窓会からも命名して欲しいという強い要望もあり、ここに提案させていただきます。

##### 2. 提案の背景

- ・ 本校は昭和38年の創立以来、地域産業の担い手を育成し、地域社会に貢献してまいりました。
- ・ 約10,000名の卒業生が地元企業や自治体で活躍しており、「真工」の名は地域に深く根付いています。
- ・ 統合後も、地域の記憶として「真工」の名を残すことは、地域の誇りと郷土愛の醸成につながると考えます。

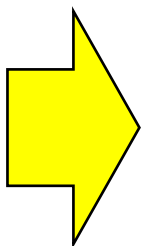
##### 3. 命名対象の道路について

- ・ 対象道路：真岡市寺久保一丁目2番地9付近、本校正門前を通る市道
- ・ 延長：約500メートル
- ・ 現状：市道として管理されており、「駅西通り」の一部となっている。

##### 4. 愛称「真工通り」の意義

- ・ 地域住民・卒業生・在校生にとって親しみのある名称
- ・ 地域の歴史と教育文化を象徴するランドマークとしての役割

市への提案書



「真工」レガシーの継承へ！！

## ⑥課題解決のための活動

### ○活動 3

## 【ボランティア活動の顕彰】

- ・学校運営協議会での意見を基に制度化
- ・人に優しい活動全般を顕彰
- ・学校全体で認め合う雰囲気！
- ・自主申告で校長表彰
- ・ボランティア活動に弾み！



|   |   |    |
|---|---|----|
| 科 | 年 | 氏名 |
|---|---|----|

年    月    日
 from \_\_\_\_\_

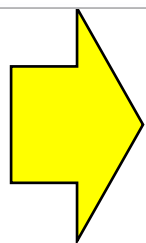
.....

.....

ありがとう!

.....

ブロンカード 1 を 5 枚集めるとシルバーカード 5 に交換できます。また、10 回分になるとゴールドカード 10 (10 枚分) に交換できます。交換するときは、先生に申し出てください。



## 自尊心の向上へ！！

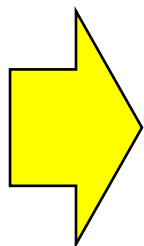
## 今後の展開

## ○学校運営協議会委員の自主的な動き

- ・OB・OGのインタビュー**記事の作成**（レガシーの継承）
- ・製品販売の**体制づくり**（委員がNPO法人を設立）
- ・「真工」の**地域への発信**（ラジオ、新聞、機関誌等への紹介）
- ・生徒の現場実習の**場の開拓**（委員の企業や機関）
- ・先端工業技術の**指導**（県産業技術センターの協力）

## ○学校としての動き

- ・農業・商業分野と連携した**地域課題解決活動**の展開
- ・中学生に対する**出前授業**や**体験学習**の充実
- ・生徒主体による6次産業の**起業**（※）
- ・生徒主体のまちづくり会社の**設立**（※） ※現状では本県では難しい



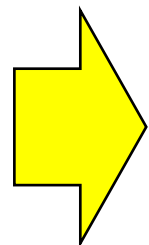
コミュニティ・スクールによる、「人づくり」「地域づくり」「つながりづくり」

### 栃木県社会教育行政の強み

- ①教育事務所社会教育主管課を設置し、社会教育主事を3～4名を配置
- ②社会教育主事有資格教員の計画的な養成と配置
- ③公立学校全校に「地域連携教員」を指名（原則として有資格教員）

### 社会教育主事からの支援

- ・県生涯学習課が「県立学校コミュニティ・スクールサポート事業」を実施
- ・教育事務所の社会教育主事がコミュニティ・スクール構築支援
- ・県総合教育センターがコミュニティ・スクールに関する調査研究を実施



課題として県立籍の社会教育主事が少なく、支援の場面や方法が明確になっていない。

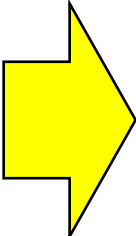
### 県立学校支援の指南書の作成

#### 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| はじめに                         | 2  |
| 1. いの一番に共通理解しておくべきこと         |    |
| (1) 小・中学校との地域の捉え方の違いについて     | 2  |
| (2) 学校と地域の連携・協働による教育効果について   | 3  |
| (3) 学校評議員と学校運営協議会の違いについて     | 5  |
| 2. 県立学校のコミュニティ・スクールの形態       |    |
| (1) コミュニティ型とテーマ型             | 7  |
| (2) テーマ型コミュニティ・スクールの支援の視点    | 8  |
| 3. コミュニティ・スクール化のロードマップ       |    |
| (1) コミュニティ・スクール構築の手順         | 9  |
| (2) 各ステージにおける教育事務所等による支援のあり方 | 13 |
| 4. コミュニティ・スクール化の実践例          |    |
| (1) 実践例の概要                   | 23 |
| (2) 各段階の実践                   | 23 |
| (3) 設置に向けた準備                 | 27 |
| 5. コミュニティ・スクールの運営            |    |
| (1) 学校運営競技化の設置               | 30 |
| (2) 学校運営協議会の開催               | 33 |
| (3) 熟議の具現化に向けた取組             | 37 |
| おわりに                         | 40 |
| 参考資料1 職員会議資料                 | 41 |
| 参考資料2 評議員会最終回資料              | 50 |
| 参考資料3 第1回会議資料                | 61 |

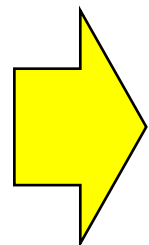
私の社会教育行政での長い経験を基に

- ・高等学校と小・中学校のコミュニティ・スクールは**どう違う**のか
- ・**社会教育行政**が**いつどのような支援**ができるか
- ・高等学校の状況を踏まえ、**効果的・効率的**な構築方法を**一般化**して整理

 コミュニティ・スクール構築のために**何をどうすればいいか**を整理して提示

### コミュニティ・スクール化のロードマップ

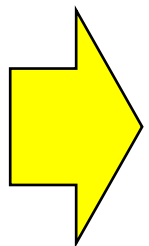
- ①コミュニティ・スクールで解決を目指す**課題（テーマ）の決定**
- ②コミュニティ・スクールの**フレームの決定**
- ③全教職員への説明と**合意形成**（必要に応じて研修の実施）
- ④課題解決に資する**委員の選任**
- ⑤学校運営協議会の**開催**（運営）
- ⑥課題解決のための**活動**
- ⑦学校運営協議会の**評価**（マネジメント）



基本的かつ効果的な**手順を示し**、それぞれの場面での**社会教育行政**による支援内容を例示した。

### 社会教育行政からの支援の視点

- ① 委員選任にあたっての地域人材の**情報提供**
- ② 学校と地域の連携に関する**職員研修の実施**
- ③ 学校運営協議会における**ファシリテーション**
- ④ 学校運営協議会の運営に資する効果的な**プログラム支援**
- ⑤ 行政組織としての他分野との**連絡調整**
- ⑥ テーマに応じた**広域的な支援**
- ⑦ 学校運営協議会の実施における**黒子的な支援**
- ⑧ 連携活動の**充実支援**
- ⑨ 子どもたちの成長と地域づくりのための**第3の目**の役割



伴走支援のための**支援のツボ**を例示

| 学校所在地  | 児童生徒数   | 学校運営協議会 |       |        | 地域学校協働活動<br>推進員数 |
|--------|---------|---------|-------|--------|------------------|
|        |         | 設置年度    | 委員数   | 年間開催回数 |                  |
| 栃木県真岡市 | 4 1 2 名 | 令和 7 年度 | 1 5 名 | 3 回    | 0 名              |

## 学校教育目標

1. 工業の多様化に対応しうる実践的技術者を育成する。
2. 勤労を尊び、責任を重んじ、積極的に明るい未来を建設する人間を育成する。
3. 健康で礼儀正しく、協調の精神に富む心豊かな人間を育成する。

## 学校・地域の特徴

- 県東地区の唯一の工業高校であるが、令和 1 1 年度に隣の農業高校と統合し、校地も移転する予定となっている。
- 生徒の 7 割は就職し、そのうち 4 割は地元の企業に就職している。
- 工業高校離れの状況も見られ、近年定員割れの状況が見られている。
- 社会教育行政として、栃木県では教育事務所に社会教育のセクションがあり、その社会教育主事が学校運営協議会の支援を行っている。
- 学校には「地域連携教員」が位置づけられ、原則として社会教育主事有資格教員が指名されている。

## 学校運営協議会の概要

### 委員の構成

- ・県産業技術センター技術部長
- ・地元企業代表者
- ・まちづくり関係者
- ・市複合交流拠点施設責任者
- ・PTA会長・同窓会長
- ・地元新聞社記者
- ・自治会関係者
- ・近隣中学校長
- ・統合予定高等学校長

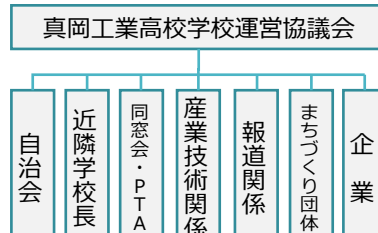
### これまでの主な議題例

- ・「真工」のいいところ、わるいところ！？
- ・これから「真工」がとりこんでいくべきことは？
- ・本校生の工業技術を向上させるには？
- ・本校の魅力を地域に発信するには？
- ・本校のレガシーの継承方策

### 組織図

#### 【コミュニティ型】

- ・市複合交流拠点施設
- ・近隣学校
- ・自治会



#### 【テーマ型】

- ・県産業技術センター
- ・地元企業
- ・建設業協会

## 地域学校協働活動 特徴的な取組や工夫など

- 市の複合交流拠点施設と連携協定を締結し、生徒が製作した製品の展示および販売、生徒の学習成果の発表の場づくり、ボランティア情報や活動機会の提供を受けている。
- 本校としては、施設で実施する事業の情報提供や参加協力、工業技術を生かした製品製作や修理等を行っている。
- 生徒は自身の作品が地域に認められる等の経験を通して、自尊感情の向上や郷土愛の醸成につながっている。

